

1-9 内藤新宿エリア

江戸時代には、宿場町「内藤新宿」が立地していました。現在は新宿通りを中心に業務・商業・居住機能が混在しています。戦後に、戦災復興区画整理事業が実施されたため、整った道路基盤となっています。新宿駅に近い西側は商業施設が多く、賑わいあふれるまちなみに、また、四谷方面の東側は住宅が多く、落ち着いたまちなみとなっています。



1. 壁面の位置がそろった新宿通り



新宿通り沿いの建築物は、壁面の位置を揃え、百尺ライン（高さ31m程度）を意識したまちなみとなっています。人通りも多く、新宿区の骨格となる通りとなっています。

2. すみ切り*交差点



戦後の戦災復興区画整理事業で、交差点では大きくすみ切りをしました。建築物は、このすみ切りを活かしてコーナーに意匠*的配慮をしたものが多く、特徴的な景観を創出しています。また、区画整理で生じた直線道路は見通しがよく、整ったまちなみとなっています。

3. 建物用途の偏りと混在



エリアは西側の繁華街と東側の住商混在地区に分かれ、同一の道路基盤にも関わらず、建築物の形態意匠*が異なり、まちなみに変化を与えています。また、建築物の正面が集中する道路と、裏側が集中する道路でもまちなみに違いがあります。エリアの西側では、飲食店から道路へと賑わいがにじみ出ています。

景観形成の目標

風格のある新宿通りと整った道路基盤を活かした整然としたまちなみへ

新宿通り沿道の建築物の形態意匠の調和を図るとともに、区画整理された場所における、賑わいと住み心地の調和した歩きやすいまちなみを創出する。

景観形成の方針

1. 賑わいと風格のある新宿通りの沿道景観をつくる

景観形成の考え方

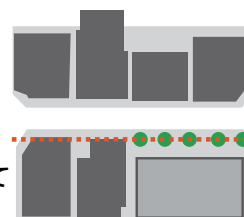
新宿の賑わい交流の骨格である新宿通りと沿道建築物とが調和した、賑わいと風格のある新宿通り沿道の景観形成を図る。

具体的な方策

- 壁面の位置や百尺ライン(高さ 31m程度)のファサード*の連続性に配慮する
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 軒線の連続性に配慮する
- 屋上広告物は、設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する
- 低層部*では、賑わいを演出しながら歩きやすさにも配慮した照明計画とする



スカイライン*や軒線などの水平方向の連続性に配慮する



壁面の位置に沿って街路樹を植える

2. 整然としたまちなみと歩きやすい空間をつくる

景観形成の考え方

区画整理による整った道路基盤を活かし、整然としたまちなみをつくりながら、このエリアを訪れる様々な人にとって歩きやすい空間を創出する。

具体的な方策

- 壁面の位置の連続性に配慮する／後退する場合は、照明や植栽帯により既存の壁面線を継承する
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 開発に伴ってオープンスペース*を計画する場合は、周囲の歩道と一体的に整備を行い、歩きやすい空間を創出する



壁面の位置や植樹帯、街灯の配置を整える

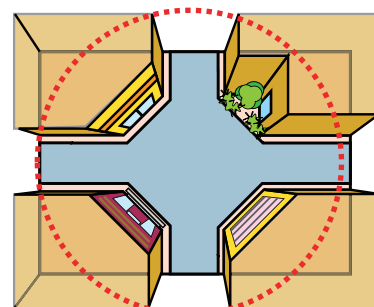
3. コーナー部分を活かした魅力的なまちかどをつくる

景観形成の考え方

区画整理により生じた比較的大きなすみ切り部分を活かし、建築物の形態意匠を工夫し魅力的なまちかどを創出する。

具体的な方策

- コーナー部に面した場所には、エントランス等開口部*を設ける
- コーナー部に面した建築物の各面は、調和した意匠とする



4つのコーナーで一つのまちかどをつくる

1-10 新宿御苑・内藤町エリア

江戸時代には高遠藩内藤家の下屋敷がありました。明治時代以降に、その大部分は宮内省の管理となり、新宿御苑として整備されました。新宿御苑内からのみどりに囲まれた眺めや、周囲から新宿御苑のみどりへの眺めなど、新宿御苑のみどりは貴重な景観資源*となっています。また、屋敷地の一部は内藤町となり、みどりの多い良好な住宅地となっています。

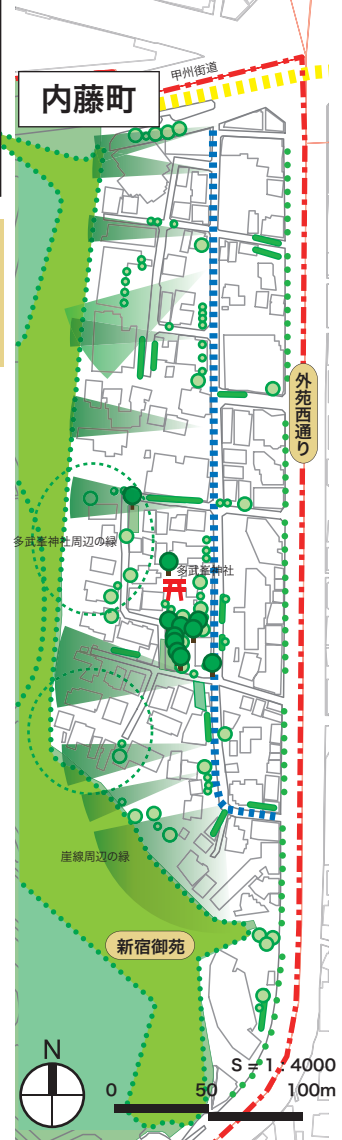


景観特性

寺院に隣接し、旅館やビジネスホテルが立ち並ぶ特徴的なまちなみとなっています。

周辺の新たな開発による高層建築物などは、新宿御苑からの眺望に配慮する必要があります。

- 【凡例】
 (都指定文化財等)
 歴史に関わる資源
 (国指定重要文化財等)
 歴史に関わる資源



1. みどりで囲まれた景観



新宿御苑は広大な敷地の大部分が芝生で覆われ、周囲は高木で囲まれています。樹木と空に囲まれた、都心では貴重な見晴らし景観が得られます。園内には様々な種類の植物が生育しており、多様なみどりに囲まれながら、人々が思い思いに過ごす様子が見られます。

2. 新宿御苑からあふれ出すみどり



新宿御苑のみどりは隣接する道路にもあふれ出しています。そのため、北側の道路沿いからは、豊かなみどりを感じることができます。

3. みどりあふれる良好な住宅地



新宿御苑の東隣にある内藤町では、新宿御苑の豊富なみどりを背景に、古くからの樹木、新しい生垣や植栽などがあり、深みのあるみどり豊かな景観となっています。特に多武峯神社周辺には、古くからの樹木が集中しています。

新宿御苑を中心としたみどりに包まれたまちなみへ

新宿御苑内からの眺望景観*を保全するとともに、新宿御苑に隣接する道路や内藤町ではみどり豊かな景観の形成を図る。

景観形成の方針

1. 新宿御苑からの眺めを保全する

景観形成の考え方

新宿御苑周辺の建築物や工作物は新宿御苑からの眺めに配慮したものとし、みどりで囲われた景観を保全する。

具体的な方策

- 新宿御苑内の眺望点*や各視点場からの眺めに配慮した形態意匠*とする
- 新宿御苑から見える建築物や工作物の色彩は、みどりや空と調和した落ち着いたものとし、特に、彩度*の高いものは避ける
- 新宿御苑から見える範囲に、屋上広告物を設置しない



みどりで包まれた新宿御苑からの眺めを保全する

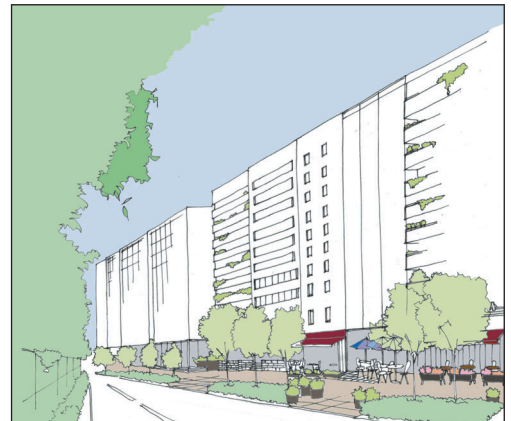
2. 新宿御苑と調和した周辺の景観をつくる

景観形成の考え方

新宿御苑北側の通りを、新宿御苑と調和したまちなみとする。

具体的な方策

- 素材や色彩はみどりと調和した落ち着いたものとする
- 新宿御苑からの連続性に配慮した緑化を行う
- みどりの連続性に加え、多様性にも配慮した植栽計画を行う



みどりと賑わいが調和した通り

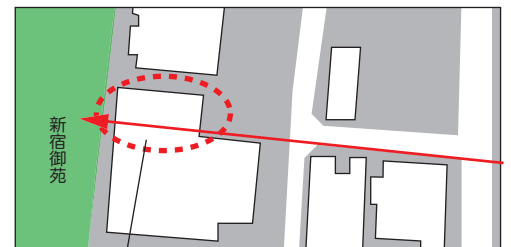
3. 内藤町のみどり豊かで良好な住環境を維持する

景観形成の考え方

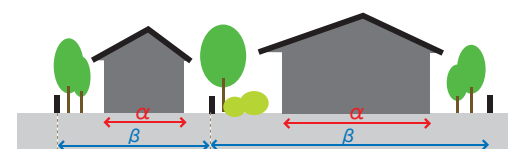
新宿御苑と隣接した、みどり豊かで潤いのあるまちなみを将来に渡って継承する。

具体的な方策

- 既存樹木を保全する
- 新宿御苑への眺めに配慮した配置とする
- 外苑西通り沿道では後背の住宅地側に空地をとり、積極的に緑化する
- 色彩や素材はみどりと調和した落ち着いたものとする
- 新宿御苑のみどりとのつながりを意識した植栽計画を行う



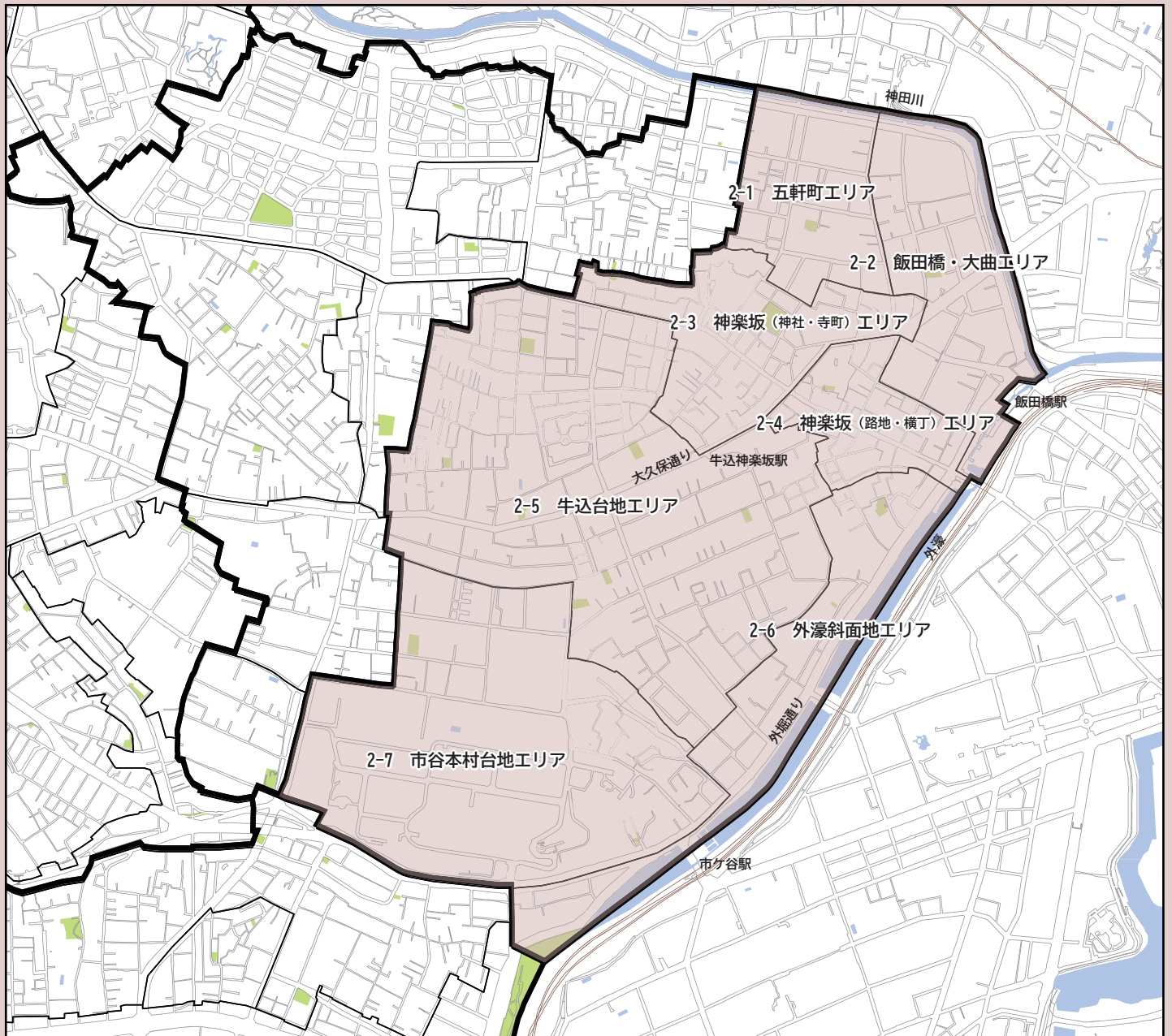
新宿御苑のみどりへの眺めに配慮する



α / β をなるべく小さく抑える
御苑に隣接した街区*での建物配置の工夫例

2 筆筥地域

筆筥地域は新宿区の東端に位置し、江戸時代の敷地割りが色濃く残っている場所です。神田川沿いの低地は印刷製本業の集積地、神楽坂の一带は歴史的情緒を漂わせる商業地、そして台地上は良好な住宅地となっています。また、地域の東側には、豊富なみどりを持つ外濠があります。



2-1 五軒町エリア

地場産業と住環境とが調和したまちなみへ

2-2 飯田橋・大曲エリア

都心に相応しい快適で落ち着いたまちなみへ

2-3 神楽坂（神社・寺町）エリア

寺社の雰囲気と調和した落ち着いたまちなみへ

2-4 神楽坂（路地・横丁）エリア

商いが生み出す伝統的な和の風情を感じる粋なまちなみへ

2-5 牛込台地エリア

戸建住宅と低中層建築物が調和したみどり豊かで落ち着いたまちなみへ

2-6 外濠斜面地エリア

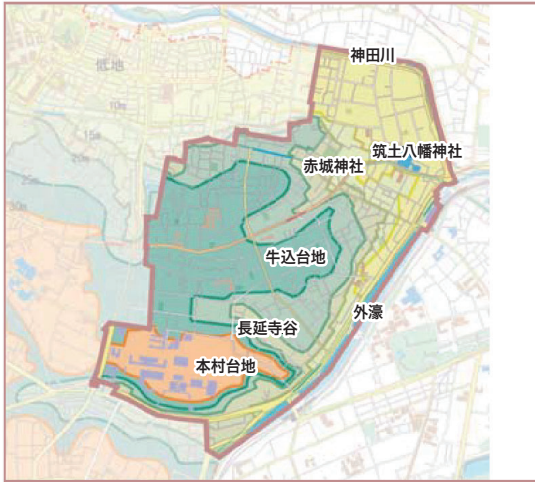
外濠と外堀通り、斜面緑地を活かした水とみどりに包まれたまちなみへ

2-7 市谷本村台地エリア

みどり豊かな歩行者空間でつながれたゆとりのあるまちなみへ

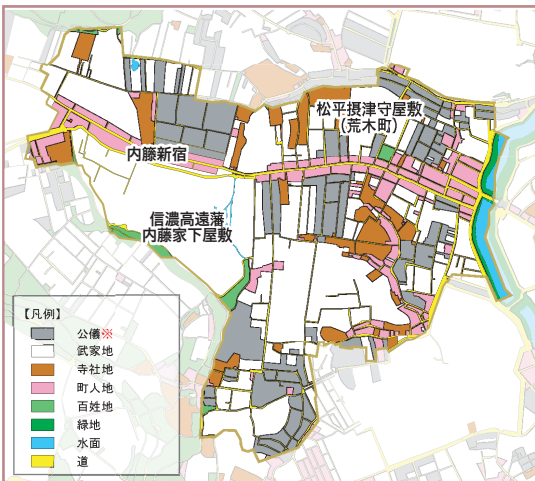
地域の概要

変化に富んだ地形



筆筥地域の地形

まちの記憶や文化



江戸時代末期の土地利用

※幕府直轄の施設用地。火除地や河岸などの地、同役の御家人に一括して与えられた租屋敷地も含む。

神田川沿いの低地

神田川沿いには低地が広がり、地場産業である印刷製本業が集積しています。また、この低地と台地の境界に赤城神社や筑土八幡神社が位置しています。



【2-1 五軒町エリア】
低地に広がる整ったまちなみ

2つの台地を隔てる谷地

早稲田通り以南は、牛込台地と本村台地の2つの台地からなっています。両台地の東側には外濠があり、斜面地となっています。また、2つの台地の間に長延寺谷が入り組んでいます。



【2-7 市谷本村台地エリア】
台地に入り込む長延寺坂

江戸の街路網と武家地の開発

現在の道路の大部分は、江戸末期に既に存在していました。また、若狭小浜藩酒井家の下屋敷があった場所は開発され、現在の矢来町となりました。また、尾張徳川家の上屋敷であった場所は、明治時代には陸軍士官学校が置かれ、現在は防衛省となっています。



【2-5 牛込台地エリア】
大名屋敷の宅地開発でできた住宅地

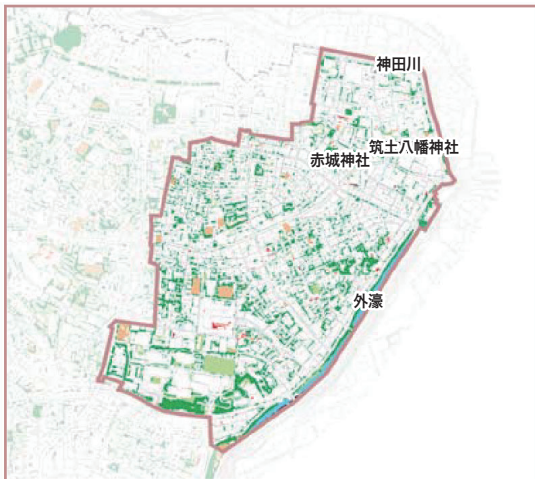
神楽坂の寺町と花街

神楽坂の西側は、江戸末期に寺院が集積した寺町でした。現在でも横寺町という地名とともに、寺院が残っています。一方、神楽坂の東側は、明治時代以降に善国寺の毘沙門天への参拝者たちで賑わった場所です。明治時代末～大正時代には文学・演劇界の著名人が盛んに活動を行うなど、花街としても発展し、現在の路地や横丁の風情が生み出されました。



【2-4 神楽坂(路地・横丁)エリア】
和の設えが印象的な神楽坂の路地

水とみどり



緑被現況分布図

神田川と外濠の水辺空間

神田川と外濠が地域の北側と東側にあります。神田川は目白通りの外周を通り、また、コンクリート三面張りの巨大なU字溝となっています。外濠には江戸の景観が残っています。



【2-6 外濠斜面地エリア】
貴重な緑地・水辺空間としての外濠

豊かな寺社のみどりと斜面緑地

地域内には大規模な公園はありませんが、赤城神社や筑土八幡神社などの寺社のみどりや手入れされた住宅街のみどりが残っています。また、外濠の豊かなみどりとともに、外濠沿いの斜面地には緑地が多く存在します。近年、開発に伴い、まとまったみどりが整備されました。



【2-3 神楽坂(神社・寺町)エリア】
台地際の寺社のみどり

2-1 五軒町エリア

五軒町エリアは神田川沿いの平坦な低地に位置しています。江戸時代からほぼ変わらない、直線道路がつくり出す整然としたまちなみが特徴です。大正時代以降には、大規模印刷工場だけでなく、中小の印刷工場の集積が進みました。また、近年ではマンション等の建設も目立つようになってきました。エリアの東側には大規模敷地が多くあり、江戸時代の馬場の跡地を挟み、西側には比較的中小規模の敷地が多くなっています。

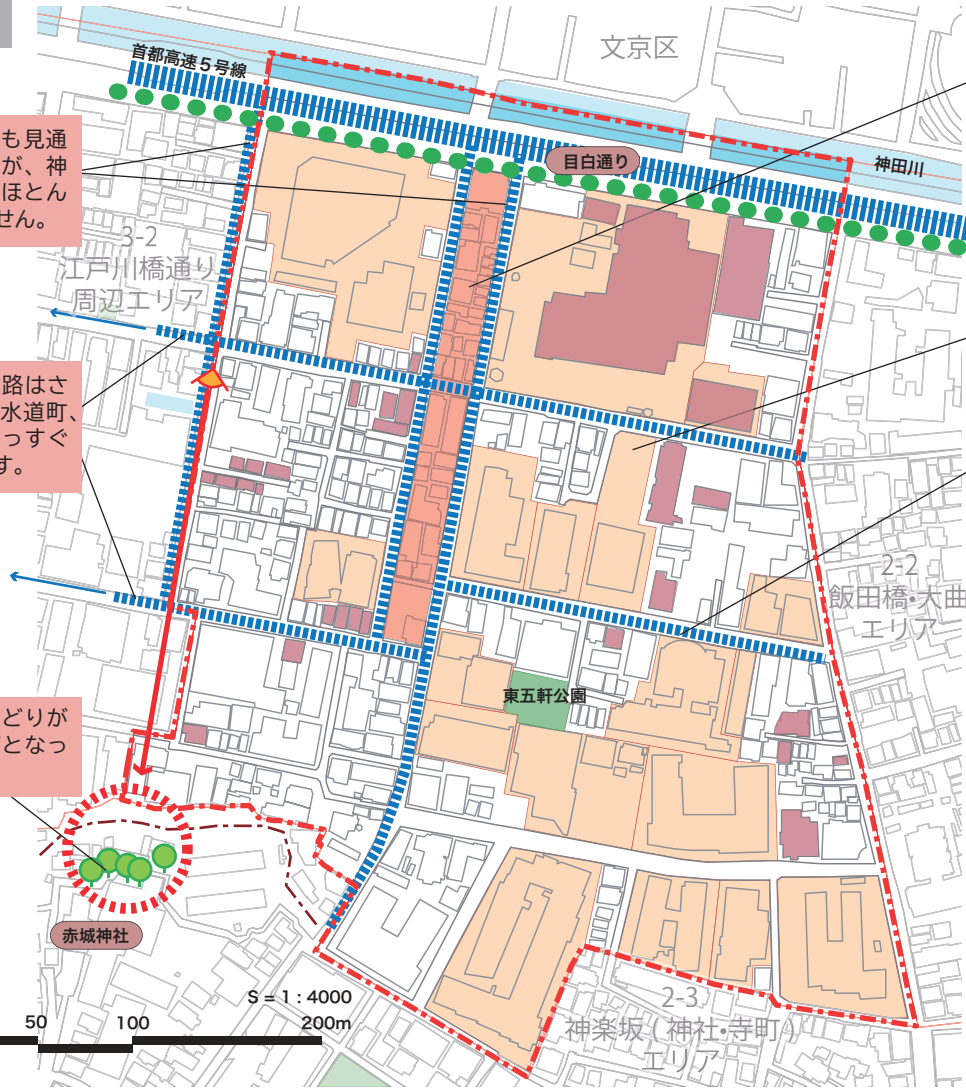


景観特性

目白通り方向も見通しが良いですが、神田川の存在はほとんど感じられません。

この二つの道路はさらに西方向（水道町、改代町）へまっすぐ伸びていきます。

赤城神社のみどりがアイストップとなっています。



江戸時代に馬場として利用されていた細長い街区が現在も残っています。東西方向の道路もこの部分だけ幅員が狭まっており、景観のアクセントとなっています。

二つの道路に接する大規模な敷地があります。公開空地や通り抜けられる通路もあり、今までとは違ったまちなみが生まれています。

印刷製本業等の地場産業が生み出す景観が、まちなみのアクセントとなっています。

【凡例】

- 眺望点
- 視線方向・重要な軸線
- 公園
- アイストップ
- 重要なみどり (一部保護樹木を含む)
- 連続するみどり
- 景観上重要な道路
- 大規模な敷地
- 印刷関連工場
- 崖線
- エリア境界

1. 直線道路の見通し



平坦な地形に、幅員の広い直線道路が通り、非常に見通しが良いです。特に東西方向の道路では、かなり遠い先まで見通すことができます。また、南北方向の道路では、南側の赤城神社や斜面緑地がアイストップ*となっています。

2. 地場産業のある景観



印刷製本業を営む大小規模の工場が集積しており、人やフォークリフト等による動きのある景観が特徴となっています。夜間や休日のみちなみの寂しさの改善や、潤いの創出が望まれます。

3. 規模の異なる建築物の混在



エリア内には大規模敷地に建つ超高層・中高層のビルやマンションと、低層の戸建て住宅の混在が見られます。街路沿いにあふれる植栽や屋上緑化などは、規模の異なる建築物の緩衝の役割を果たしています。

地場産業と住環境とが調和したまちなみへ

印刷製本業が発達したまちに共同住宅が増加してきていることを踏まえ、地場産業と住環境とが調和したまちなみを創出する。

景観形成の方針

1. 地場産業と住環境とを調和させる

景観形成の考え方

地場産業のまちなみ特有の夜間や休日の際の寂しさを改善し、住機能との調和を図っていく。

具体的な方策

- 隣地境界線沿いや道路沿いでは積極的に緑化を行う
- 夜間でも安心して通行できるよう、道路沿いには照明を設置する



生業とみどりがともにある

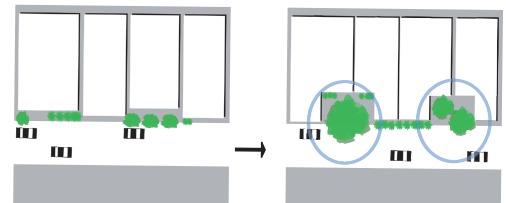
2. みどりを積極的に増やす

景観形成の考え方

寺社・公園などまとまったみどりの代わりに、まちなかに積極的にみどりを増やし潤いのあるまちなみをつくる。

具体的な方策

- 大規模の計画では、まとまった緑化を行う
- 道路沿いを積極的に緑化するなどし、規模の異なる建築物の緩衝の役割を担うみどりを整備する



みどりをまとめることで効果を増す

3. 見通しの良い道路景観をつくる

景観形成の考え方

平坦な地形や直線道路などでつくられる見通しの良さを活かす。

具体的な方策

- 袖看板などは、見通しを妨げない工夫をする
- 崖地や神社のみどりへの眺めを妨げないよう配慮する



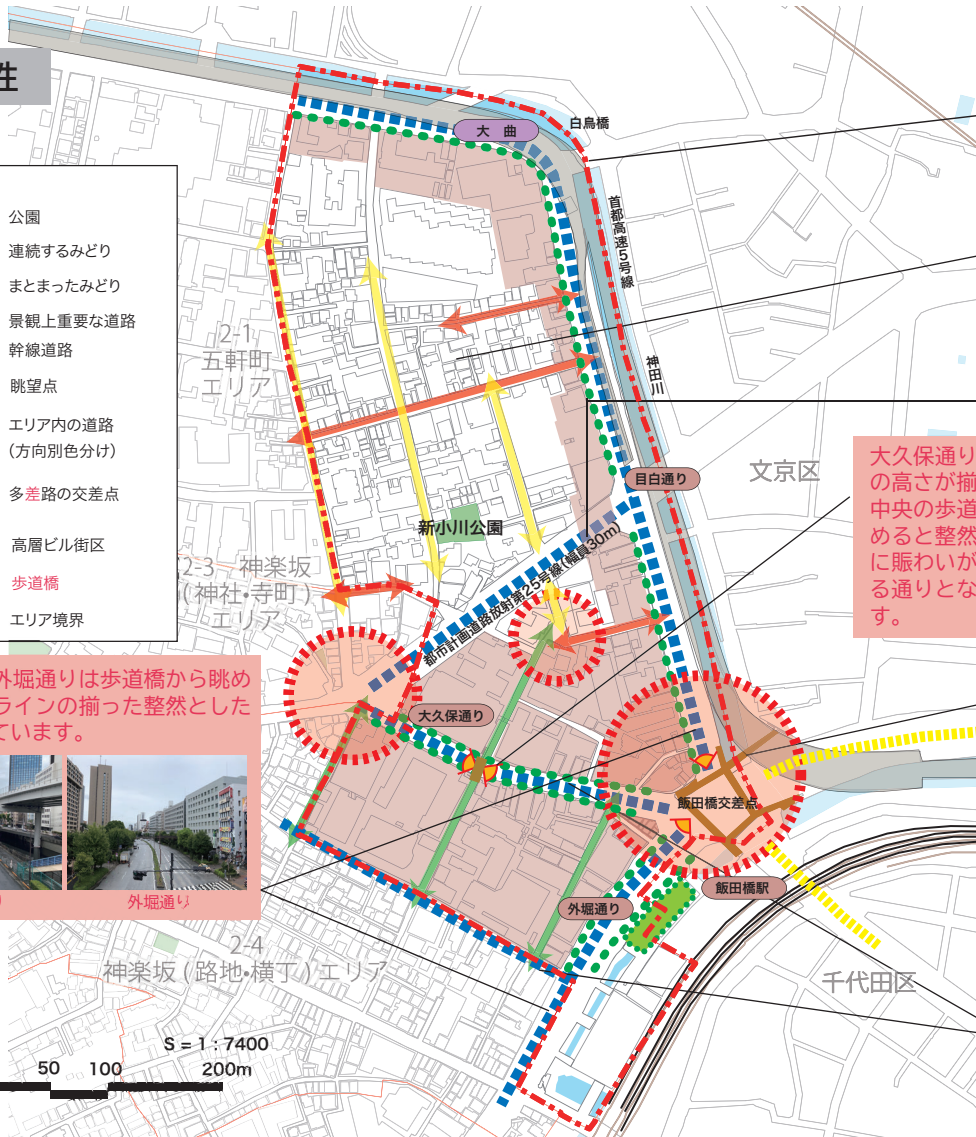
建築物の配置や形態を工夫して見通しを守るイメージ

2-2 飯田橋・大曲エリア

飯田橋駅前から神田川が大きく屈曲する大曲付近までの、業務・商業・工業・居住機能の混在したエリアです。飯田橋駅前では、幹線道路の五差路の上に歩道橋がかかっており、周囲の建築物には屋外広告物*が数多く設置されています。都心にふさわしい、すっきりとした景観が望めます。また、神田川は目白通りや首都高速によってまちと分断されています。



景観特性



大曲は神田川が大きく屈曲する位置にあたります。白鳥橋方面から見て、アイストップ*となっています。

共同住宅や一戸建ての住宅、店舗、小規模オフィスビル、印刷製本工場などが混在したまちなみとなっています。

放射第25号線の整備に伴い無電柱化が行われました。

大久保通りは街路樹の高さが揃っており、中央の歩道橋から眺めると整然とした中に賑わいを感じられる通りとなっています。



目白通りや外堀通りは歩道橋から眺めるとスカイラインの揃った整然とした通りとなっています。



歩道橋の上からは、五方向に道路が伸びていく広がりのある眺めが得られます。



大久保通りや軽子坂は、高低差のある坂道となっています。

1. 駅前の景観



幹線道路が集中する飯田橋駅前には、人通り、車通りの多い五差路の交差点となっています。交差点の上にかかる歩道橋からは、幹線道路を見通すことができ、開放的な眺めを得ることができます。周囲の建築物には、すっきりとした外観や全体としての統一感が望めます。

2. 幹線道路沿いの景観



エリアの東側を通る目白通りは、歩道が狭く、神田川上部には高架の高速道路が通り、閉塞感があります。しかしながら一部の大規模建築物では、低層部*の開放的なつくりや色彩の統一など、景観に配慮された面も見られます。新たに整備された都市計画道路放射第25号線は、現道の無い区間において整備されたため、沿道建築物の壁面の位置や高さが揃っていません。

3. 視線が集まるアイストップ*



エリア内には、神田川に並行、直交する道路と、外堀に並行した道路が交わりアイストップ*をつくりだしている場所があります。また、道路の折れ曲がり部分や突き当たり部分では視線が集まります。こうした場所では、建築物の意匠*や緑化などによる配慮が望めます。

都心にふさわしい快適で風格のあるまちなみへ

地域の顔となる飯田橋駅前の整然としたまちなみを創出するとともに、開放感やみどりの潤いがある快適な歩行者空間を創出する。

景観形成の方針

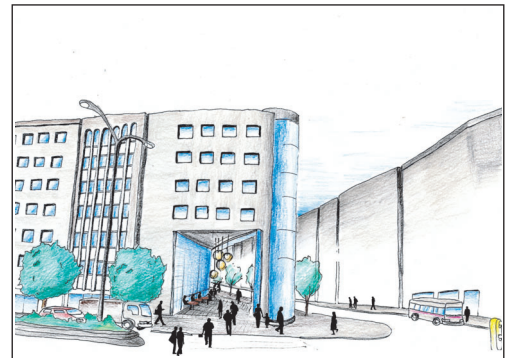
1. 飯田橋駅前では風格のあるまちなみと 低層部の賑わいを創出する

景観形成の考え方

交通の要所であり、エリアの顔となる飯田橋駅前は、五差路上の歩道橋からの眺めを風格のある街路景観とするとともに、地上部は賑わいのある景観とする。

具体的な方策

- 駅前の賑わい拠点にふさわしい形態意匠*とする
- 駅前の角地に位置する建築物は、まちなみのシンボルとなることを考慮した意匠とする
- 屋上広告物は、設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する
- ファサード*の連続性を意識し、落ち着いた形態意匠とする
- 低層部は開放的なつくりとし、賑わいを感じさせる沿道景観を形成する



壁面位置や高さを周囲と合わせつつ、角地を活かしてアクセントをつける

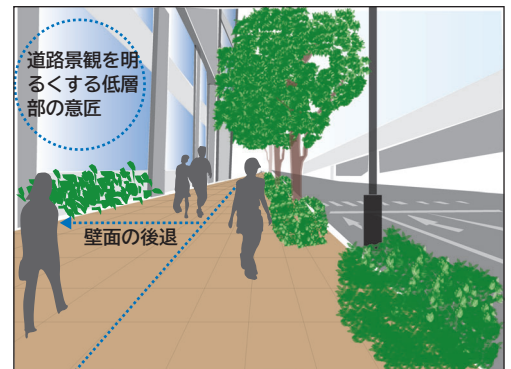
2. 幹線道路沿いでは快適な歩行者空間をつくる

景観形成の考え方

目白通り、放射第25号線、大久保通り、外堀通りなどの幹線道路沿いでは、賑わいやゆとりを感じさせる快適な歩行者空間をつくる。また、目白通り沿いでは明るさを感じさせる工夫を行う。

具体的な方策

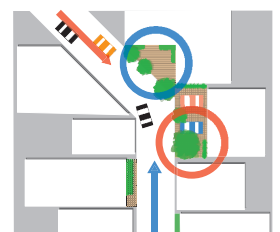
- 壁面の位置は後退させ、道沿いにゆとりをつくる
- 低層部は透過性の高い素材を使用する
- 道路沿いには空地をとり、植栽帯を設ける
- 周囲と調和した壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 低層部やエントランス部分の照明により、夜間でも快適な歩行者空間を創出する



快適な歩行者空間をつくる



道路基盤の特徴を活かして、みどりを配置する



3. アイスストップを活かした景観をつくる

景観形成の考え方

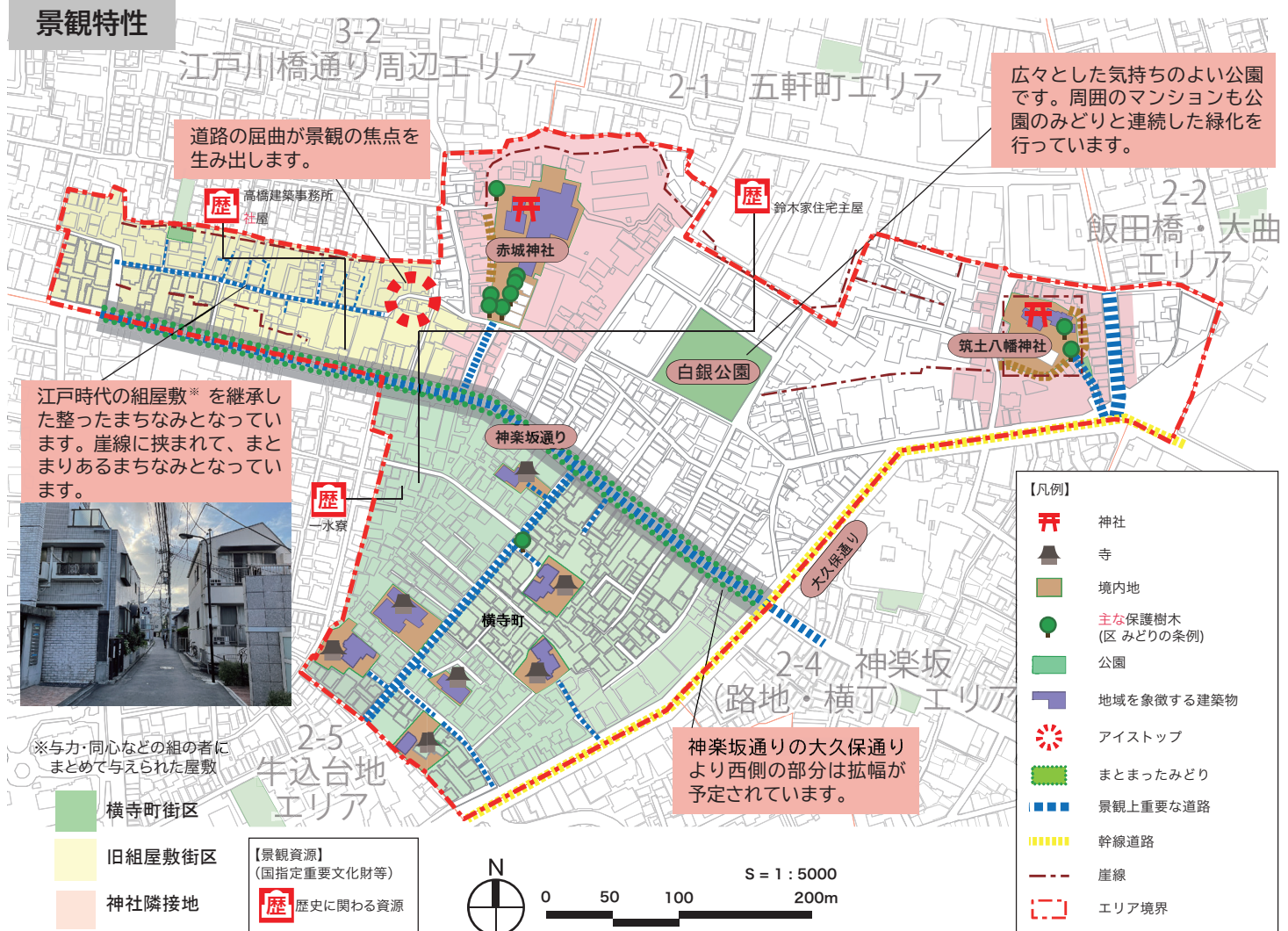
アイスストップとなる道路の折れ曲がり部分や突き当たり部分などを活かした景観をつくる。

具体的な方策

- 道路の折れ曲がり部分や突き当たり部分では、視線の集まることを考慮した意匠とする
- 道路の折れ曲がり部分や突き当たり部分では、積極的に緑化を行う

2-3 神楽坂（神社・寺町）エリア

赤城神社や筑土八幡神社、横寺町の寺町などを景観の核としたエリアです。両神社とも、台地の上に位置しており、豊かなみどりや参道などがまちなみに歴史のおもむきを与えています。また、神楽坂通り南側の横寺町には、現在も奥まった場所に寺院が立地し、落ち着いた雰囲気となっています。



1. 景観の核となる2つの神社



台地の上で豊かなみどりに包まれた2つの神社は、地域における歴史やみどりの核としてこのエリアの景観を特徴付けています。境内はもちろん、まちなかに伸びている参道や広場空間を通じて、神社の雰囲気が周囲に波及しています。

2. 寺町のまちなみ



江戸時代に寺院が建ち並んでいた横寺町では、現在でも寺院が残っており、その参道はまちなみのアクセントとなっています。周辺の建築物については、寺町の落ち着いた雰囲気を創出するような工夫が望まれます。

3. 神楽坂通りの景観



神楽坂上の交差点より西側は、拡幅が予定されています。そのため、沿道には店舗として利用されていることが多い低層の建築物が建ち並び、賑わいのあるまちなみとなっています。また、緩やかなカーブと坂道が、神楽坂通りのまちなみに変化を与えています。

寺社の雰囲気と調和した落ち着いたまちなみへ

寺社を景観の核として周囲のまちなみを落ち着きあるものにしていくとともに、拡幅後も神楽坂通りの賑わいを継承する。

景観形成の方針

1. 神社の雰囲気と調和した落ち着いたまちなみをつくる

景観形成の考え方

景観資源*である赤城神社、筑土八幡神社の落ち着いた雰囲気を保全し、周辺地でも神社に配慮した落ち着いた景観をつくる。

具体的な方策

- 神社周辺では、神社の雰囲気と調和し落ち着いた形態意匠*及び色彩とする
- 特に、境内から見える場合は、境内からの眺めに配慮する
- 参道に面する場合は、神社への眺めを妨げないように配慮する
- 神社周辺では、照明の明るさや色に配慮し、落ち着いた夜間景観を創出する



エリアのシンボルとして赤城神社の参道沿いのまちなみをつくる

2. 寺町の雰囲気を活かしたまちなみをつくる

景観形成の考え方

寺院自体の更新や、周辺地における建替え等で失われつつある寺町らしい風情ある景観を、保全・再生させる。

具体的な方策

- 外構*や植栽は寺社の雰囲気と調和させる
- 寺院への見通しを妨げないようにする



寺院の落ち着きある雰囲気を活かした景観をつくる

3. 神楽坂通り沿道の賑わいを保全する

景観形成の考え方

神楽坂通り沿道では、道路拡幅後も従来の賑わい景観を継承する。

具体的な方策

- 壁面の位置を揃え、周囲のまちなみとの調和を図る
- 低層部*の賑わいを感じられるよう、1階の軒線を強調した意匠*とする
- 間口は現在の規模を継承するか、もしくは、分節化を図る
- 人を引き込む滞留空間を設ける場合には、歩道やみどりのつながりをもたせる
- 照明は、賑わいを演出しつつ、後背の神社や寺町の落ち着きと調和したものとなるよう配慮する
- 屋外広告物*は神楽坂の風情ある景観と調和するよう配慮する



拡幅後も小規模な店舗の連なる賑わい景観を継承する

2-4 神楽坂（路地・横丁）エリア

坂道に間口の狭い店舗が軒を連ねる神楽坂通り沿いでは、賑わいあふれるまちなみが広がっています。通りから一步入ると、石畳の路地や横丁が独特の風情を漂わせています。黒塀や門構え、石畳など和の意匠*がこのエリアの景観を特徴づけています。

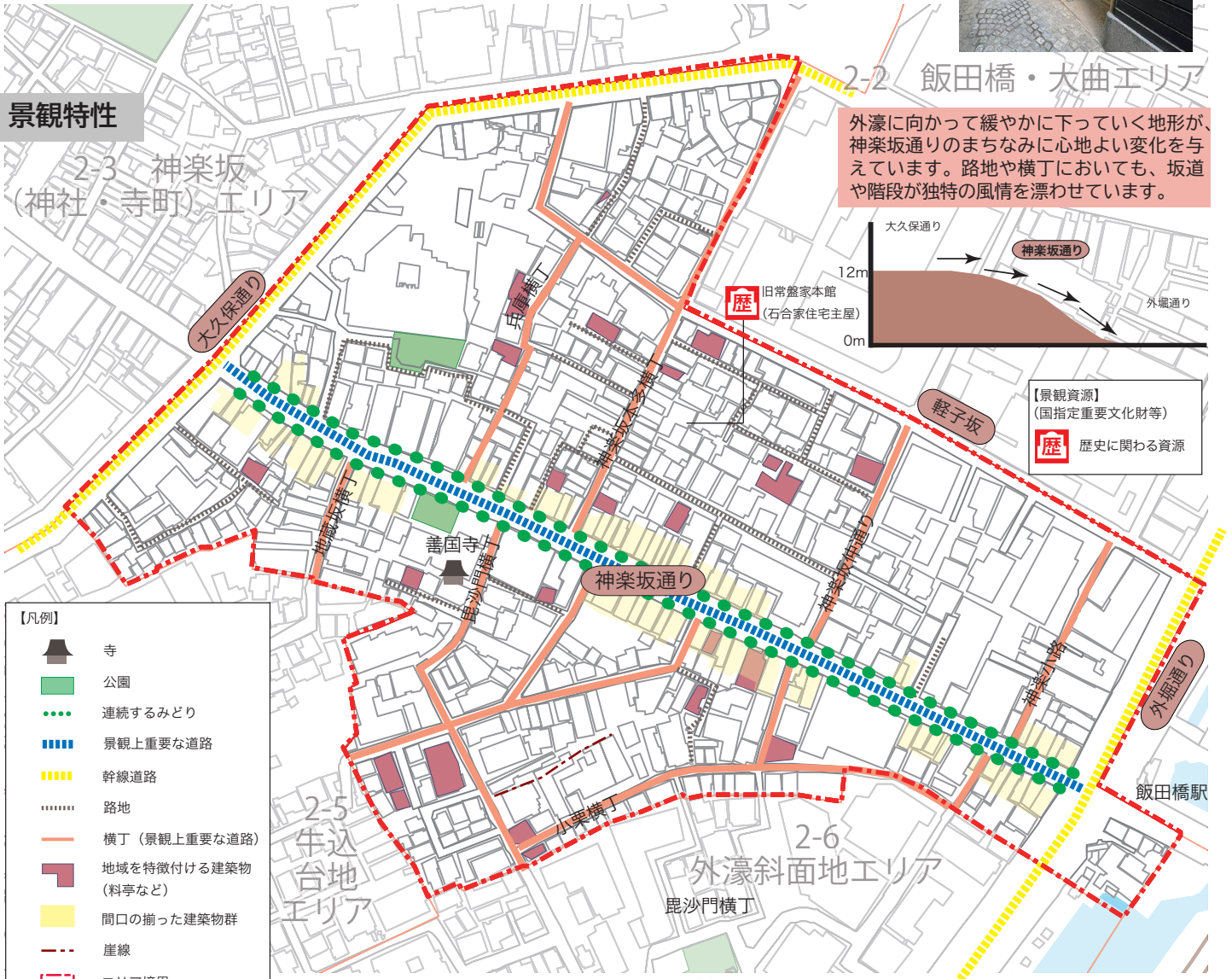


景観特性

2-3 神楽坂（神社・寺町）エリア

2-2 飯田橋・犬曲エリア

外濠に向かって緩やかに下っていく地形が、神楽坂通りのまちなみに心地よい変化を与えています。路地や横丁においても、坂道や階段が独特の風情を漂わせています。



1. 神楽坂通りの細やかなまちなみ



神楽坂通りは、幅員が狭く高低差が約12mの坂道であり、その沿道には、小さな間口で中高層の建築物が建ち並んでいます。低層部*には小規模の店舗が数多く入っています。坂道に沿って街路樹が並び、各店舗の袖看板が重なり合う景観は、その特徴を強く感じさせます。

2. 路地の和の風情



神楽坂の路地は、明治時代以降の武家地の分割により徐々に形成されました。石畳の路地や洒落た店構えが、花街の風情を感じさせます。また、緩やかな斜面地のため坂道や階段などがあり、変化のある路地景観となっています。

3. 横丁の親しみあるまちなみ



神楽坂通りの北側には、神楽小路、仲通り、本多横丁といった個性的な横丁があります。飲食店等が建ち並び、親しみの持てる横丁景観となっています。一方、南側には地蔵坂横丁、毘沙門横丁、小栗横丁などがあり、傾斜が急なため、坂道や曲がり角が多くなっています。

商いが生み出す伝統的な和の風情を感じる粋なまちなみへ

花街の雰囲気やいまだに色濃く残す路地や横丁景観を軸として、神楽坂全体で和の風情を感じさせる粋なまちなみを生み出す。

景観形成の方針

1. 神楽坂通りのきめ細かなまちなみを継承する

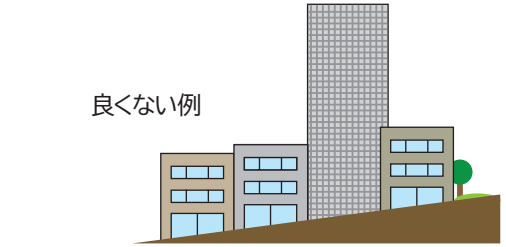
景観形成の考え方

伝統的な和の風情を感じる、細やかな賑わいのまちなみを将来にわたって継承していく。

具体的な方策

- 壁面の位置を揃え、周囲のまちなみとの調和を図る
- 低層部の賑わいを感じられるよう、1階の軒線を強調した意匠とする
- 間口は現在の規模を継承するか、もしくは、分節化を図る
- 1階の店舗は開口部*を大きくとり、ショウウィンドウ等を設置する
- 夜間景観に配慮し、シャッターは透過性の高いものとする
- **賑わいを演出しつつ和の風情を感じさせる落ち着いた照明を設ける**
- 袖看板の規模や位置は、周囲の建築物に調和したものとする
- 神楽坂通りの入口(飯田橋駅側、大久保通り側)の角地では、神楽坂通りを代表するに相応しい形態意匠*及び色彩とする

良くない例



小規模な店舗が連なり賑やかさがまちなみにあふれる

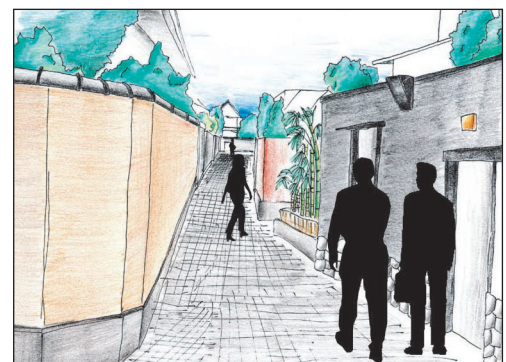
2. 伝統的な和の風情を感じる路地のまちなみを継承する

景観形成の考え方

花柳界の歴史を持つ路地では、それぞれの特性に応じた設えを工夫し、まちの持つ回遊性の魅力を向上させる。

具体的な方策

- 和の風情を感じさせる形態意匠*及び色彩とする
- 植栽は、和風植栽とする(竹や笹、桜、紅葉、椿など)
- 黒塀や石畳などが連なる場所では、その連続性に配慮した外構*計画とする
- **和の風情を感じられる落ち着いた夜間景観を創出する**



路地景観を保全・創出する

3. まとまりのある横丁景観をつくる

景観形成の考え方

店舗と住居が混在する横丁では、散在する店舗同士のつながりを感じられるような横丁景観をつくり、神楽坂通りや路地とつなげ、回遊性の魅力を向上させる。

具体的な方策

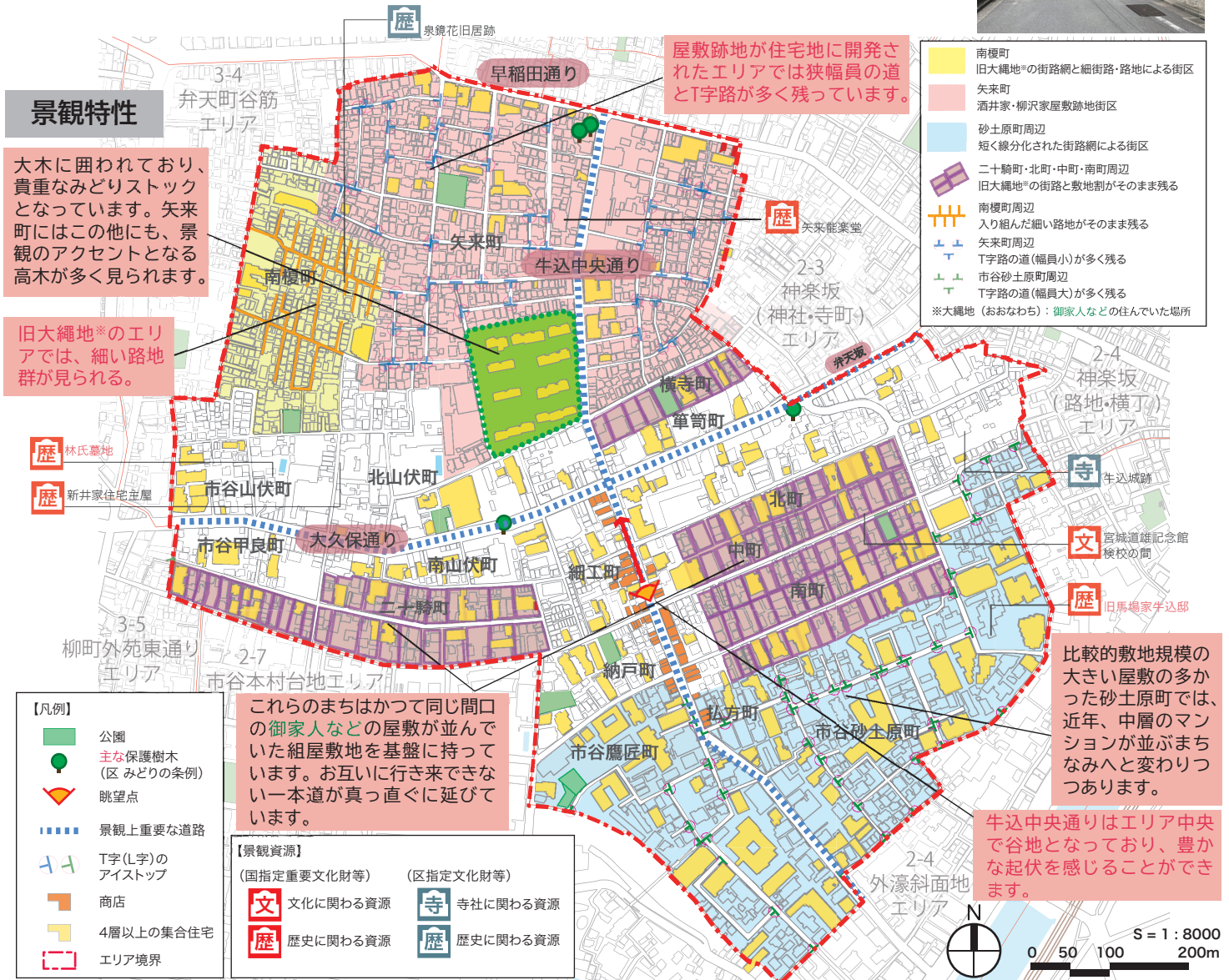
- 看板類の規模や位置は、周囲と調和のとれたものとする
- **照明は、店舗の賑わいを演出しつつ住居の落ち着きを感じられるよう配慮する**
- 神楽坂通りからの見え方に配慮した形態意匠*及び色彩とする
- 路地からの見え方に配慮した形態意匠*及び色彩とする



まとまりある横丁景観をつくる

2-5 牛込台地エリア

牛込台地の上ではいくつかのタイプの異なる住宅地が集合し、みどり豊かで良好な住宅地を形成しています。江戸時代の武家地の敷地割りを現在も残し、同規模の敷地が連続している南榎町や二十騎町、北町、中町、南町などが特徴的なまちなみとなっています。



1. 特徴の異なる武家地の集まり



牛込台地上には、江戸時代に若狭小浜藩酒井家の下屋敷であった矢来町があります。また、御家人に与えられた組屋敷の敷地割りを現在も継承している南榎町や北町、中町、南町などがあり、江戸時代から同じ武家地でも異なる特徴を持つまちなみが、現在も残っています。

2. あふれ出す庭のみどり



このエリアには、庭のある一戸建ての住宅が多くあります。道路にあふれ出す庭木が、道路景観に潤いを与えています。また、近年では共同住宅も目立ってきましたが、敷地際の緑化など地域に溶け込む工夫がされています。

3. エリアを貫く通りのまちなみ



エリアの中央を南北に貫く牛込中央通りの納戸町や細工町周辺では、小規模な店舗の建ち並ぶまちなみがみられます。また、外堀通りとの交差点付近では、壁面線の揃ったまちなみが見られます。

エリアを東西に貫く大久保通りでは拡幅事業が行われており、今後のまちなみの変化が予想されます。

戸建住宅と低中層建築物が調和したみどり豊かで落ち着いたまちなみへ

江戸時代から続く台地上に広がる閑静な住宅地のまちなみや、連続するみどりを保全していく。

景観形成の方針

1. 同規模敷地の連なる整然としたまちなみを継承する

景観形成の考え方

南榎町や二十騎町、北町、中町及び南町などは、江戸時代からの敷地割りが残っている貴重なまちなみとして積極的に保全していく。

具体的な方策

- 敷地統合の際は、外構*や植栽等で既存の敷地割を基にして分節化を図る
- 敷地分割の際は、外構や植栽等で既存の敷地割を基にしたまとまりをつくる
- 塀の高さをそろえ、もともとの間口の統一感を維持する



もともとの間口の統一感を維持する

2. 中層マンションは戸建て住宅地に調和させる

景観形成の考え方

一戸建ての住宅中心の既存のまちなみに配慮し、増加しつつある中層マンションは圧迫感、異質感を軽減させ周囲に調和させる。

具体的な方策

- T字路のアイストップ*は積極的に緑化する
- 中層マンションは既存のまちなみに調和するような色彩・素材とする
- 敷地際に植栽を配置するなど、みどりの連続性に配慮した緑化を行う
- 駐車場、駐輪場などは道路から見えないような配置とする
- 塀の高さを揃え、もともとの間口の統一感を維持する



戸建住宅地に溶け込みみどりに包まれた中層マンション

3. 住宅地を貫く牛込中央通りを落ち着きと賑わいの感じられる通りとする

景観形成の考え方

細やかな商店の連なりや、スカイライン*がそろったオフィスビルの連なりを活かし、牛込中央通りを落ち着きと賑わいの感じられる通りとする。

具体的な方策

- 低層部*は、賑わいを感じられるような開放的な意匠*とする
- 中高層部*は、壁面の位置やスカイラインを周辺とそろえる
- 現在の細やかな間口を継承し、低層部は分節化を図る
- 低層部やエントランス部の照明により夜間でも快適な歩行者空間を創出する



落ち着きと賑わいの感じられる通り

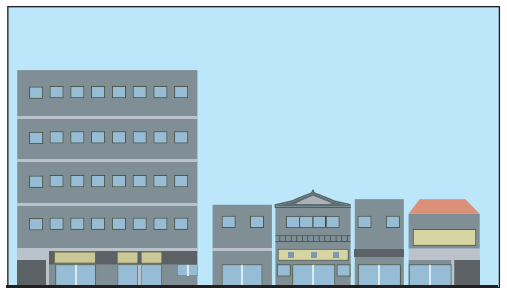
4. 大久保通りでは周囲の住宅街に配慮し、快適な歩行者空間を創出する

景観形成の考え方

大久保通りでは、歩道からの眺めを意識し、賑わいを感じられる景観を形成するとともに、周囲の住宅街の落ち着いた雰囲気にも配慮する。

具体的な方策

- 落ち着いた形態意匠*及び色彩とし、積極的に緑化を行う
- スカイラインや壁面線、低層部のファサード*の連続性に配慮する
- 周囲に圧迫感や閉塞感を与えないような形態意匠・規模とする
- 低層部やエントランス部の照明により夜間でも快適な歩行者空間を創出する



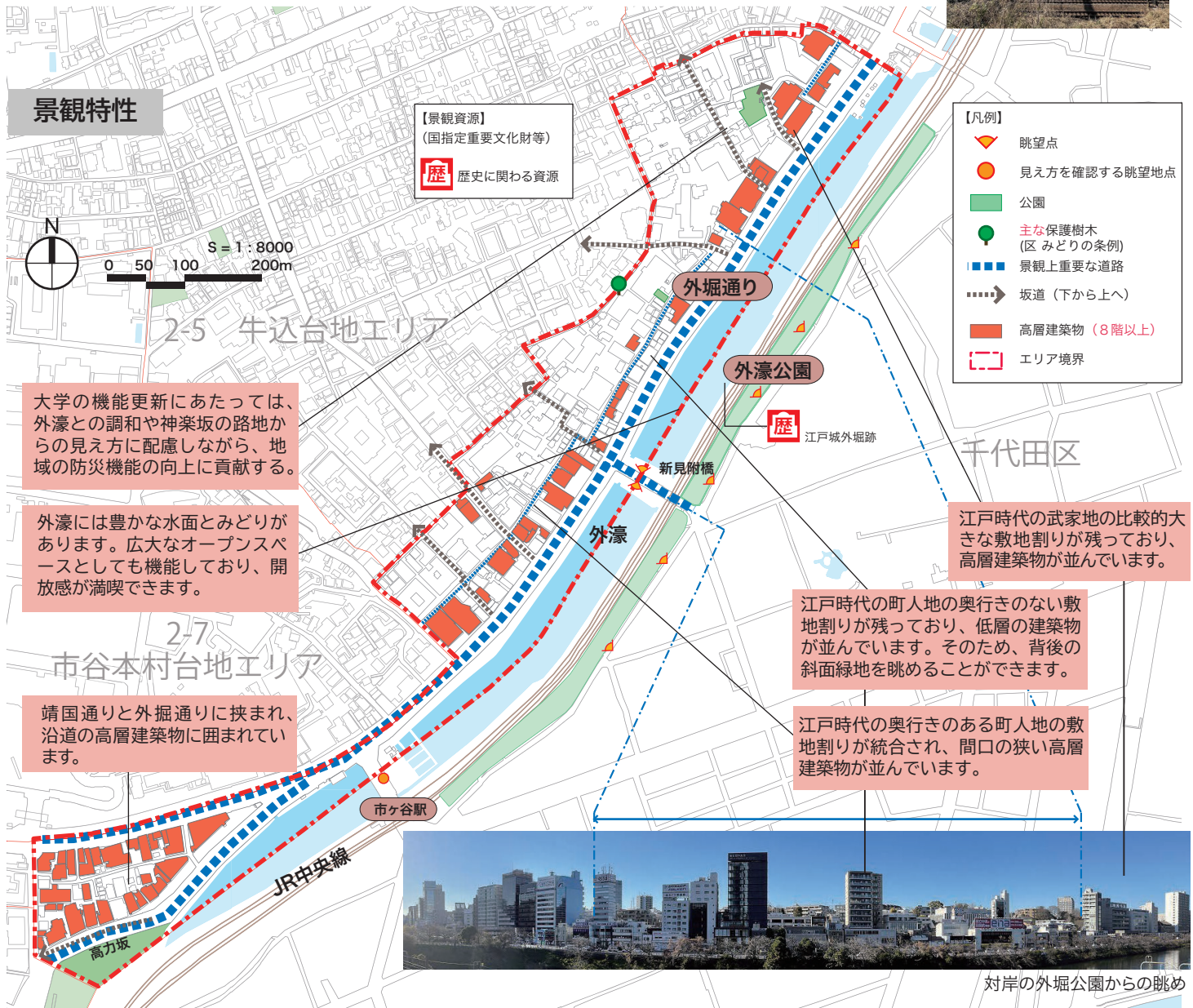
1階は店舗にして間口を分節する

小規模な間口の店舗の連なりを維持する

低層部は小規模な店舗の連なりを継承する

2-6 外濠斜面地エリア

外濠の深いみどり、斜面地に広がる住宅地のみどりが一体となって、みどりで包まれたまちなみを生み出しています。特に外濠公園（千代田区）からは、この豊かなみどりを一望にすることができます。逆に斜面地の坂道からは、開放感のある眺めを得ることができます。



1. みどりで包まれた眺め



外濠公園からは外濠のみどりと斜面地に広がる住宅地のみどりが一体となった景観を一望にすることができます。しかし、外堀通り沿いの高層建築物が、斜面地を覆い隠している箇所もあります。

2. 外堀通りと並走する道路



外堀通りと並走する幅員の狭い道路は通勤通学路にもなっており、多くの人が歩いていますが、建物が見え隠れしている場合も多く、寂しい通りとなっています。沿道の建築物は、快適な歩行者空間を創出する工夫が望まれます。

3. 急勾配の斜面



外堀通りから西側へ向かう坂道は急勾配のため、曲がり角が多く、庭先のみどりがアイストップ*となっています。また擁壁も、自然石が積まれたものがかなり残っており、歴史を感じさせます。

外濠と外堀通り、斜面緑地を活かした水とみどりに包まれたまちなみへ

都心の貴重な水辺空間であり、豊かなみどりで囲われた外濠を中心に、斜面地の特性を活かしたみどりに包まれたまちなみをつくる。

景観形成の方針

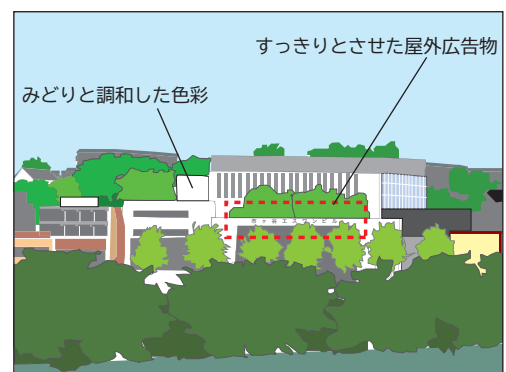
1. 外濠対岸から眺める水とみどりに包まれたまちなみをつくる

景観形成の考え方

外濠対岸の外濠公園やJR中央線の車窓から眺める水とみどりを中心とした景観を、新宿区を代表する美しい都市景観として守り育てていく。

具体的な方策

- 色彩は、水とみどりに調和したものとし、特に彩度*の高いものは避ける
- 外壁の素材は、自然素材のものとする
- 外濠や外堀通りに面する場合は、壁面の分節化を図り長大な壁とならないよう配慮する
- 屋上広告物は、設置しないようにするか、建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する
- 外濠対岸からの見え方に配慮した落ち着いた照明を用いる
- 外濠公園からの眺めを保全するため、高さのある樹木やまとまったみどりを積極的に保全・創出する



屋外広告物*等をすっきりとさせ、みどりと調和した色彩とする

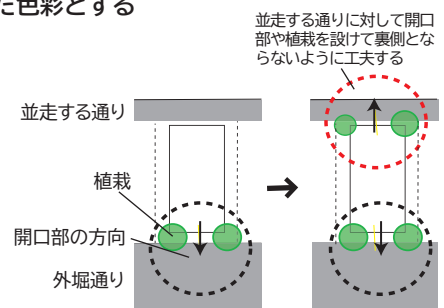
2. 外堀通り沿道では並走する通りに対しても配慮する

景観形成の考え方

外堀通りだけでなく、並走する通りに対しても建物が裏側とならないよう工夫する。

具体的な方策

- 並走する通りに対しては
- 入り口や開口部*を設ける
 - 設備機器置き場などを設ける場合は、植栽や外構*などで工夫し修景*を行う
 - 道路沿いに照明等を設置する



庭のみどりがあふれ出る 壁面緑化
みどりが折り重なるまちなみをつくる

3. 斜面住宅地のみどりを保全・創出する

景観形成の考え方

斜面地の特性を活かし、現在の良好な住宅地の景観をさらに向上させる。

具体的な方策

- 視線が集中しやすい坂の折れ曲がり部分では、積極的に緑化を行う
- 垣・さくなどは生垣や閉鎖的でないものとする
- 擁壁の上部の垣・さくは高さを抑える
- 擁壁は周囲と調和し、圧迫感を与えないものとなるよう工夫する

2-7 市谷本村台地エリア

江戸時代には、尾張徳川家の上屋敷があった場所です。現在は、防衛省を中心に、大規模な公共的施設や工場等によるスケールの大きな景観が特徴となっています。台地の際で崖となっている部分は緑化されていることも多く、硬い印象を和らげています。市ヶ谷駅や市谷亀岡八幡宮などの人の集まる場所からの落ち着いた眺めの創出が望まれます。



景観特性

しっかりした直行の道路基盤を持つ、整ったまちなみが広がっています。西側は敷地分割が進み、小規模な建築物が建ち並んでいます。

【景観資源】
(国指定重要文化財等)
歴 歴史に関わる資源

工場の機能更新にあたっては、森のようなみどり豊かな景観が創出されました。

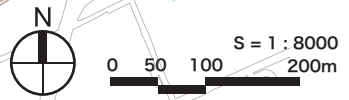
防衛省の電波塔はエリア内に限らず、広範囲のいろいろな場所から眺めることができるランドマークとなっています。

靖国通りが折れ曲がるコーナー部分は、杉並木となっています。市ヶ谷駅方面からはちょうどアイストップの位置に見えます。

【凡例】			
	眺望点		今後整備予定の広場
	見え方を確認する眺望地点		今後整備予定の公園
	視線方向・重要な軸線		今後整備予定の緑地
	神社		連続するみどり
	公園		景観上重要な道路
	ランドマーク		幹線道路
	主な保護樹木 (区みどりの条例)		大規模な敷地
	まとまったみどり		崖線
			まちなみの大幅な変化が予想される場所
			エリア境界



JR市ヶ谷駅前からは、外堀通り沿いの高層建築群が見えます。江戸を代表する風景の一つだった場所です。



1. 大規模施設群を中心としたまちなみ



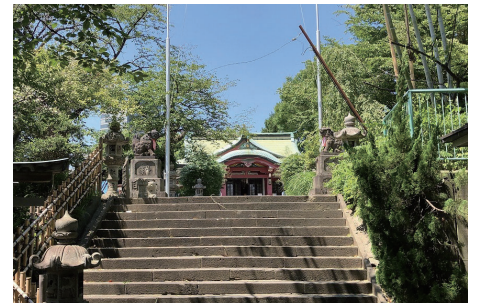
エリア南側から中央にかけては防衛省や官庁群など、大規模な施設が特徴のまちなみとなっています。こうした大規模施設の周辺や、長延寺谷一带には、緑化された快適な歩行者空間が創出されています。またエリアの北側や東側には中小規模の住宅が建ち並び、大規模施設が建ち並ぶエリアとは景観特性が大きく異なっています。

2. 崖地の表情



台地の周縁部は崖地となっています。防衛省の敷地は、長大な崖地となっている靖国通り沿いで壁面緑化を行っており、心地よいみどりの壁が続いています。また、長延寺谷の崖地も起伏の大きい地形を感じさせる景観となっています。

3. 市谷亀岡八幡宮



かつて市ヶ谷橋（JR市ヶ谷駅付近）からは市谷亀岡八幡宮の豊かなみどりを望むことができましたが、現在では外堀通り沿いの高層建築物に視線を妨げられています。また、市谷亀岡八幡宮からはこうした高層建築物群の裏側が見えてしまっており、眺めに対する配慮が望まれます。

みどり豊かな歩行者空間でつながれたゆとりのあるまちなみへ

大規模な公共施設などによるスケールの大きな景観と、周辺の住宅地を、みどり豊かな歩行者空間でつなぎ、調和させていく。

景観形成の方針

1. 大規模施設群を周辺の住宅地に調和させる

景観形成の考え方

大規模な施設等によるスケールの大きなまちなみと中小規模の住宅が建ち並ぶ住宅地のまちなみを調和させる。

具体的な方策

- 形態意匠*や色彩は周辺に配慮した落ち着いたものとする
- 壁面の分節化を図り、長大な壁とならないよう配慮する
- 道路沿いなどに十分な広さの空地を設け、樹木や草花などによる緑化を行い、歩行者にとって明るく潤いのある景観をつくる
- 屋上緑化や壁面緑化を積極的に行う
- 規模の異なる建築物が隣接する際には植栽などにより緩衝帯を設けるなど、景観が調和するように工夫する



ゆとりと潤いを感じる快適な景観をつくる

2. 変化に富んだ地形を活かした

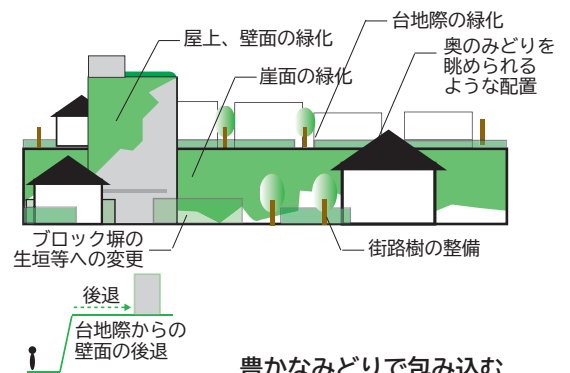
みどり豊かな景観をつくる

景観形成の考え方

斜面地では積極的に緑化を行い、大規模施設群や中低層の住宅が混在するまちなみをみどり豊かなものにする。

具体的な方策

- 崖下からの眺めを考慮し、積極的に緑化を行う（例えば、生垣の推進、壁面緑化や屋上緑化など）



豊かなみどりで包み込む

3. 市ヶ谷駅と市谷亀岡八幡神社からの

落ち着いた眺めをつくる

景観形成の考え方

市ヶ谷駅付近や市谷亀岡八幡神社からの雑然とした眺めを整えることで、地域の核となる景観を創出する。

具体的な方策

- 外堀通り沿いでは、市ヶ谷駅前からの眺めに配慮し、外濠と調和した落ち着いた形態意匠及び色彩とする
- 市ヶ谷駅や市谷亀岡八幡神社から見える場所では、屋上広告物は建築物と一体的に計画し、周囲からの見え方に配慮する



スカイライン*が揃い整然としたまちなみのイメージ